

分野	専門基礎分野	科目	解剖生理学Ⅰ (筋・骨格・循環器・消化器)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	塩谷 尚志		
科目概要	総論・骨格系と筋系・循環器・呼吸器に関する基礎的な仕組みについて学ぶ						
科目目標	構造と機能から見た人体を理解する。 骨・筋の解剖と機能 循環器・呼吸器の解剖生理						
回数	テーマ	学習内容			学習形態		備考
1	総論Ⅰ	構造と機能(個体～器官)			スライド 解説		
2	総論Ⅱ	構造と機能(組織～分子)			スライド 解説		
3	骨・筋Ⅰ	総論			スライド 解説		
4	骨・筋Ⅱ	上肢			スライド 解説		
5	骨・筋Ⅲ	下肢			スライド 解説		
6	骨・筋Ⅳ	頭頸			スライド 解説		
7	骨・筋Ⅴ	体幹			スライド 解説		
8	循環器Ⅰ	解剖			スライド 解説		
9	循環器Ⅱ	生理			スライド 解説		
10	循環器Ⅲ	末梢の解剖・生理			スライド 解説		
11	循環器Ⅳ	血圧調整・リンパ系			スライド 解説		
12	呼吸器Ⅰ	構造・解剖			スライド 解説		
13	呼吸器Ⅱ	生理			スライド 解説		
14	呼吸器Ⅲ	病態生理			スライド 解説		
15	復習						
テキスト		系統看護学講座 解剖生理学 医学書院					
参考書		—					
自己学習への 指針		授業の復習					
評価方法		単位認定試験					

分野	専門基礎分野	科目	解剖生理学Ⅲ (脳・神経・代謝・内分泌)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	北島 具秀		
科目概要	神経系は可也複雑です。その全てを知る事は殆ど不可能でしょう。今回の講義では神経系と言う物がある程度理解するのに必要な最低限度を伝えるに留まります。特に実社会に出てから役に立ちそうな基礎を講義したいと思います。 講義内容は教科書に概ね準拠しますが、一部は教科書に記載されていない物もあります。ここは講義用のプリントなどを参照してください。 内分泌は人体の恒常性を保つために組織・器官の間を主に血流を利用して伝達する生理現象である。血流によって運ばれる信号物質をホルモンと呼ぶが、伝達をするため特定器官で合成される。ホルモンの合成量・分泌量の増減や、受容体の感度により体内現象をコントロールするので、バランスが崩れると病気の原因となることが多い。 講義では内分泌を中心に様々な病気との関連性について学ぶ。						
科目目標	1. 生体を維持するために必要な神経系の基本的構造と機能を理解する。 2. 神経系が生体をどうコントロールしているのかを理解する。 3. 神経系の機能と構造の関係をある程度理解する。 4. ヒトと云う生命体における神経系の役割に思いを馳せて欲しい。 5. 生命・生体を活用する機能について理解する。 6. 人体のどこで内分泌物質が作られ、どのような役割があるかを理解できる。 7. 内分泌の恒常性における体内現象との関連を理解できる。 8. ホルモンの過不足が原因で起きる病的状態を理解し、看護の職に利用できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	イントロダクション	イントロダクション 神経とは何だろう 神経系の大まかな構造と機能 自律神経とは何だろう その構造と機能			講義		
2	神経細胞	神経系の発生 神経細胞と支持組織 神経細胞での情報の伝達			講義		
3	脊髄と脳	脊髄の構造と機能 脳の構造と機能 脳幹、小脳、間脳、大脳 脳室系と髄膜、脳脊髄液の循環			講義		
4	脊髄神経 脳神経	脊髄神経の構造と機能 脊髄神経の構成、脊髄神経の支配領域、脊髄神経の機能 脳神経の機能と構造 脳神経の支配領域、脳神経の機能			講義		
5	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能行動と情動行動			講義		
6	運動機能 感覚機能	運動ニューロン 下行伝導路 錐体外路 感覚の種類 感覚の性質 感覚受容器 上行伝導路			講義		
7	眼、耳、味覚、 嗅覚、痛みなど	眼の構造と視覚 耳の構造と聴覚、平衡覚 味覚と嗅覚 痛みの分類 痛みの発生機序			講義		

8	内分泌総論	内分泌物質(ホルモン)が関わっている体内生理現象の系統 - 成長・代謝 - カルシウム代謝 - 浸透圧・血圧 - 血糖 - 性分化	講義	
9	ペプチドホルモンとステロイドホルモン	ペプチドホルモン - 種類 - 作用機構 ステロイドホルモン - 種類 - 作用機構	講義	
10	視床下部と脳下垂体前葉	視床下部 - ホルモンの分泌・調節とその作用 脳下垂体前葉 - ホルモンの分泌・調節とその作用	講義	
11	成長・代謝の調節	成長・代謝に関わる内分泌器官・ホルモン - 甲状腺 - 脳下垂体前葉	講義	
12	カルシウム代謝の調節	カルシウム代謝に関わる内分泌器官・ホルモン - 副甲状腺 - 甲状腺	講義	
13	浸透圧・血圧の調節	浸透圧・血圧に関わる内分泌器官・ホルモン - 脳下垂体後葉 - 副腎	講義	
14	血糖の調節	血糖(エネルギー恒常性)に関わる内分泌器官・ホルモン - 膵臓 - その他ホルモン	講義	
15	性分化の発達	性分化に関わる内分泌器官・ホルモン - 性腺 - 男性(雄性)ホルモン - 女性(雌性)ホルモン	講義	
テキスト		『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』医療情報科学研究所(メディックメディア) 『病気がみえる vol.7 脳・神経』医療情報科学研究所(メディックメディア)		
参考書		講義内で適宜指示する		
自己学習への指針		1. 講義内容は教科書に準拠します。教科書に書いてある事は予習されていると考えて講義を進めます。十分な予習をお願いします。 2. 毎回講義内容の重要点を「確認問題」として各自にプリント配布するので、そのプリントを学習に利用する。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門基礎分野	科目	解剖生理学Ⅴ (生活行動からみる身体のしくみ)	単位	1	時間数	30
学年	2 年	時期	後期	講師名	古田富美子		
科目概要	解剖生理学は、病態の理解や日常生活行動を援助する看護技術の理解の土台になる科目である。解剖生理学Ⅰ～Ⅳの講義終了後、日常生活行動と解剖学の知識が結び付けられるように演習を通して主体的に学修し、看護の視点から解剖学の知識を修得することが臨床判断能力を培い、対象の命を守る看護へと繋がることを学ぶ。						
科目目標	1 解剖生理学の基礎知識を生活行動面から理解する 2 生活行動からみた解剖生理学を理解する 3 解剖生理学の知識が、対象に適した看護に繋がることを理解する						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	心臓が動く (循環器)	・循環器のしくみを描き、その働きを説明できる 心臓の構造・刺激伝導系、体循環、肺循環、 動脈・毛細血管・静脈の構造、リンパ系の構造 ・グループ学習内容を発表			演習	・1G6 名 ・A-4 ファイル各自用意	
2	息をする (呼吸器)	・呼吸器の全体像を描き、その働きを説明できる 肺、気管、気管支、肺胞、縦隔の位置、呼吸筋 ・グループ学習内容を発表			演習		
3	考える (脳・神経系①)	・中枢神経のしくみを描き、その働きを説明できる 大脳・脊髄の灰白質・白質の場所、脳室の位置 視床・視床下部の位置、中脳・橋・延髄の位置、 小脳の位置、髄膜の名称			演習		
4	情報の伝達 (脳・神経系②)	・末梢神経のしくみを描き、その働きを説明できる 脳神経(12 対)・脊髄神経(31 対)の分岐部位 体性神経(感覚・運動)の説明 自律神経(交感・副交感)の分岐部位とその支配領域 ・グループ学習内容を発表			演習		
5	聞く・話す 恒常性の維持 (感覚器・内分泌・生殖器①)	・感覚器のしくみを描き、その働きを説明できる 眼球の構造、視細胞 鼻腔・副鼻腔の構造 外耳・中耳・内耳の構造 舌の構造・味蕾 皮膚の構造、感覚受容器 ・全身の内分泌腺を描く 松果体、下垂体、甲状腺・副甲状腺、腎臓・副腎、膵臓			演習		
6	恒常性の維持 生殖 (感覚器・内分泌・生殖器②)	・全身の内分泌腺のホルモンの働きと標的臓器、ホルモンの種類、フィードバックシステムを説明できる ・女性・男性生殖器を描き、その働きを説明する 女性生殖器：子宮と膀胱・直腸の位置関係、膣、陰唇 男性生殖器：精巣・精巣上体、精管、前立腺、陰茎 ・グループ学習内容を発表			演習		
7	動く ① (骨・筋肉)	・全身の骨格を描き、支持器官としての全体像を捉える 頭蓋骨、脊柱(椎骨)、胸骨・肋骨、上肢骨、下肢骨 ・立っているときの脊柱(背骨)の生理的彎曲(正しい背骨の曲がり具合)を描く ・全身の関節の部位と種類を描く			演習		
8	動く ② (骨・筋肉)、	・全身の骨格筋を描く(前面・後面の図) 頸部、胸部、腹部、上肢、下肢 ・立っているときに働いている全身の筋肉を説明できる ・歩くときの股関節・膝関節・足関節の動き(屈曲・伸展、背屈・底屈)を説明できる ・歩くときに必要な下肢の筋肉の動き(収縮・弛緩)を説明できる			演習		

9	動く ③ (骨・筋肉)	・座っているときの股関節・膝関節の動き（屈曲・伸展）を説明できる ・座っているときに働いている筋肉の動き（収縮・弛緩）を説明できる ・物をつかむときの動きに関係する関節と筋肉の動きを説明できる ・表情に関係する筋肉を描き、その働きを説明できる ・グループ学習内容を発表する	演習	
10	食べる ① (消化器系)	・口腔～肛門までの消化管を描く。 - 口腔、咽頭、食道、小腸（十二指腸・空腸・回腸）盲腸、結腸（上行・横行・下行）、直腸の全景を捉える ・口腔～肛門までの消化管の働きを説明できる	演習	
11	食べる ② (消化器系)	・肝臓・胆嚢・膵臓を描く（消化管との位置関係の確認） ・肝臓・胆嚢・膵臓の働きを説明できる ・三大栄養素の消化吸収について説明できる - 糖質・脂質・たんぱく質の消化酵素 - 消化管ホルモン	演習	
12	食べる ③ (消化器系)	・食行動に関係のある器官との連携について説明できる 「食物の判断」に必要な身体の器官は？ 「食物を口まで運ぶ動作」に必要な身体の器官は？ 「咀嚼し味わう」ために必要な身体の器官は？ ・嚥下のプロセスを描く（口腔相、咽頭相、食道相の図） ・食物が気管に入らない仕組みを説明できる ・グループ学習内容を発表する	演習	
13	トイレに行く ① (腎・泌尿器系)	・腎・泌尿器のしくみを描く *ネフロン（糸球体・ボーマン嚢・尿細管）、腎盂、集合管を描き、腎臓の全体像を捉える *排尿路としての尿管・膀胱・尿道（女性・男性）を描く ・尿ができるプロセスを描く - 糸球体・ボーマン嚢・近位尿細管・ヘンレループ・遠位尿細管・集合管における濾過・再吸収・分泌機能と関与するホルモンを記入する	演習	
14	トイレに行く ② (腎・泌尿器系)	・蓄尿・排尿に関わる神経支配を説明できる ・尿ができるプロセスを説明できる ・尿意を感じる神経支配を説明できる ・排尿行動のしくみを説明できる	演習	
15	トイレに行く ③ (消化器系)	・便ができるプロセスを説明できる ・便意を感じる神経支配を説明できる ・排便行動のしくみを説明できる ・グループ学習内容を発表する ・生活行動からみた身体のしくみのまとめ	演習	解剖生理学 オリジナル ルノートの 完成
テキスト		「解剖生理学 人体の構造と機能①」 医学書院、プチナース解剖生理ワーク 照林社		
参考書		授業内で適宜指示する		
自己学習への 指針		教科書を熟読し、予習を行ってください。 参考書や問題集を利用して、復習に役立ててください。		
評価方法		単位認定試験（70）％ 媒体の評価（20）％ 演習の参加態度（10）％		

分野	専門基礎分野	科目	生化学	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	前期	講師名	朝倉 正		
科目概要	生体を構成する物質の構造・代謝・機能および異常を分子レベルで捉え、生体の恒常性と疾患の発症のメカニズムを化学の視点から学ぶ。						
科目目標	看護師として、目の前の患者を理解し、回復に向けて適切な看護を提供するために、医療において最低限必要な生化学の知識を体系的・網羅的に学ぶ。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	生化学を学ぶための基礎知識	生体を構成する元素 細胞の構造と機能			講義		
2	代謝の基礎と酵素・補酵素	三大栄養素の代謝 酵素の基礎知識			講義		
3	糖質の構造と機能	糖質の化学構造 単糖類・二糖類・多糖類			講義		
4	糖質代謝	糖質の消化吸收、グルコースの分解、グリコーゲン代謝、糖新生、糖質代謝遺伝疾患			講義		
5	脂質の構造と機能	脂質の化学構造 脂質の種類、リポタンパク質			講義		
6	脂質代謝	脂質の消化と吸収、脂肪酸の分解、脂質の合成 脂質代謝遺伝疾患			講義		
7	タンパク質の構造と機能	アミノ酸の特徴・種類 タンパク質の構造			講義		
8	タンパク代謝	タンパク質の消化吸收、アミノ酸の分解、尿素回路 必須・非必須アミノ酸、アミノ酸代謝酵素欠損症			講義		
9	ポルフィリン代謝と異物代謝	ポルフィリンの構造、ヘムの分解とビリルビン代謝 生体異物代謝、アルコールの分解			講義		
10	遺伝子と核酸	細胞分裂、染色体、核酸の構造と機能 核酸の代謝			講義		
11	遺伝子の複製・修復・組換え	DNA の複製・修復 遺伝性疾患			講義		
12	転写	転写の開始と RNA 鎖の伸長 遺伝子の発現調節			講義		
13	翻訳と翻訳後修飾	翻訳のメカニズム			講義		
14	シグナル伝達	シグナル伝達物質と受容体の種類、ホルモンの受容体とフィードバック調節、ホルモン異常による疾患			講義		
15	がん	がん細胞の特徴・分類・原因、がん遺伝子、がん薬物療法			講義		
テキスト		「生化学（人体の構造と機能②）」 医学書院					
参考書		講義中に適宜指示する					
自己学習への指針		難解な用語・漢字が理解できるように調べ学習を行ってください。 授業の復習、教科書の熟読を習慣づけてください。 参考書や問題集を活用して、理解度の確認をしてください。					
評価方法		単位認定試験					

分野	専門基礎分野	科目	病理学	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	マリア・エリザベート		
科目概要	病気の原因やその成り立ち、病状の進行により生じる現象、身体への影響を学ぶ。						
科目目標	1.機能形態学で学習した健全な人体の構造と機能の知識を前提に、生体の病的変化を、形態的、機能的にとらえ、疾病の成り立ちを理解する。 2.各臓器で生じる疾病の原因、成り立ち、それによる身体的影響を理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	病理学で学ぶこと 細胞・組織の障害について	・看護と病理学、病気の原因、病気の分類 ・細胞・組織の損傷と適応 ・細胞、組織の損傷に対する反応としての炎症、炎症の分類と治療			講義		
2	免疫、移植と再生医療	・免疫と免疫不全 ・アレルギーと自己免疫疾患 ・移植と再生医療			講義		
3	感染症	・感染の成立と感染症の発病 ・おもな感染症 ・感染症の治療・予防			講義		
4	循環障害	・循環器の概要 ・浮腫(水腫) ・充血とうっ血 ・出血と止血 ・血栓症、塞栓症 ・虚血と梗塞 ・全身性の循環障害 ・側副循環による障害 ・高血圧症 ・播種性血管内凝固障害(DIC) ・ショックと臓器不全			講義		
5	代謝障害	・脂質代謝障害 ・タンパク質代謝障害 ・糖質代謝異常、その他の代謝障害			講義		
6	老化と死	・個体の老化と老年症候群 ・老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化 ・個体の死と終末期医療			講義		
7	先天異常と遺伝性疾患	・遺伝の生物学 ・先天異常 ・遺伝子の異常と疾患 ・先天異常・遺伝性疾患の診断と治療			講義		
8	腫瘍	・腫瘍の定義を分類 ・悪性腫瘍の広がりと影響 ・腫瘍発生の病理 ・診断と治療			講義		
9	生活習慣と環境因子による生体の障害	・生活習慣による生体の障害 ・放射線による生体への障害 ・中毒			講義		
10	病理学各論①	循環器系の疾患 血液・造血器系の疾患			講義		
11	病理学各論②	呼吸器系の疾患			講義		
12	病理学各論③	消化器系の疾患			講義		
13	病理学各論④	内分泌系の疾患			講義		
14	病理学各論⑤	脳・神経・筋肉系の疾患 骨・関節系の疾患			講義		
15	病理学各論⑥	腎・泌尿器、生殖器系および乳腺の疾患 眼・耳・皮膚の疾患			講義		

テキスト	系統看護学講座 病理学 医学書院
参考書	講義内で適宜指示する
自己学習への 指針	予習復習は必ず自分の力になります。1項目ずつでよいのでコツコツすすめることが大切です。わからない言葉はそのままにせず、調べる習慣をつけてください。
評価方法	授業参加 単位認定試験 他

分野	専門基礎分野	科目	病態生理学Ⅰ (呼吸器・循環器・血液造血器)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	小野寺玲利（呼吸器） 内藤篤彦（循環器） 服部大樹（血液・造血器）		
科目概要	1. 呼吸器は人体において外界と直接つながっており、感染症やアレルギー疾患、悪性疾患、免疫関連疾患など様々な病気がみられ、『病気のデパート』ともいわれる臓器である。 当講義では、呼吸器の構造と機能から始まり、病態生理、診断方法、治療手技を概説し、各疾患についての病態を説明し、呼吸器への理解を深めていく。 2. 循環器系は血液を全身のあらゆる臓器に循環させ、酸素や栄養を供給する一方で二酸化炭素や不要な代謝産物を除去する役目を担っています。当講義では循環器系のしくみや循環器系疾患の病態についてテキストに記載されている図の解説を中心に行うとともに問題演習を通じて理解を深めてもらいます。講義では触れることができなかった内容を含め、テキストに記載の全てが終講試験の範囲となります。						
科目目標	1. 呼吸器の解剖・生理を基本に、呼吸器に関する自覚・他覚症状や検査方法、治療手技を理解し、個々の呼吸器疾患についての病態や症状、治療についての知識を習得する。 2. 循環器系の構造と機能を説明できる。 主な循環器疾患（虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈、弁膜症、心膜炎、心筋疾患、先天性心疾患、動静脈リンパ管疾患）で認められる症状、病態生理、検査と治療について説明できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	呼吸器の構造と機能	呼吸の構造 呼吸器の生理			講義		
2	症状とその病態生理	自覚症状 他覚症状			講義		
3	検査と治療・処置	診察と診断の流れ 検査 治療・処置			講義		
4	疾患の理解	感染症 間質性肺疾患 気道疾患 肺血栓塞栓症 呼吸不全			講義		
5	疾患の理解	呼吸調節に関する疾患 肺腫瘍 肺・肺血管の形成異常 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 肺移植、胸部外傷			講義		
6	循環器疾患と治療	循環器系の構造と機能			講義		
7	循環器疾患と治療	虚血性心疾患、先天性心疾患			講義		
8	循環器疾患と治療	血圧異常、動静脈リンパ管疾患			講義		

9	循環器疾患と治療	弁膜症、不整脈	講義	
10	循環器疾患と治療	心不全、心筋疾患	講義	
11	血液の生理 造血器のしくみ	血液の生理と造血器のしくみ ・血液の成分と機能、止血のメカニズム ・造血のしくみ	講義	
12	血液・造血器疾患と治療	血液・造血器の検査、輸血療法 ・末梢血検査、骨髓検査、染色体・遺伝子検査、画像検査 ・血液製剤の種類、血液型、交差適合試験、輸血副作用	講義	
13	血液・造血器疾患と治療	赤血球の異常、出血性疾患 ・鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血 ・血小板減少症、血友病、播種性血管内凝固症候群	講義	
14	血液・造血器疾患と治療	造血器腫瘍Ⅰ ・急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病 ・造血幹細胞移植	講義	
15	血液・造血器疾患と治療	造血器腫瘍Ⅱ ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫	講義	
テキスト		系統看護学講座 成人看護学（２）呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学（３）循環器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学（４）血液・造血器 医学書院		
参考書		授業の中で適宜指示する		
自己学習への指針		テキストを熟読すること		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門基礎分野	科目	病態生理学Ⅱ (消化器・腎泌尿器・ 歯科・口腔外科)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	塩谷尚志(消化器・腎泌尿器) 外木守雄・栗山智宏 (歯口腔)		
科目概要	1. 消化器疾患と治療 2. 口腔の健康は、質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしている。 乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における口腔とその機能の状態および歯科疾患の特性に応じて、適切かつ効果的に歯科口腔領域でのケアを進めることが重要である。 3. 腎・泌尿器疾患と治療						
科目目標	1. 主な消化器疾患の理解 2. 臨床において歯科・口腔領域に関するケアを具体的にイメージするために、歯・口腔の構造と機能について学び、歯・口腔疾患との関係を理解できるようになる。 3. 腎機能・排泄機能障害の理解						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	消化器Ⅰ	総論Ⅰ			スライド 解説		
2	消化器Ⅱ	食道・胃			スライド 解説		
3	消化器Ⅲ	胃			スライド 解説		
4	消化器Ⅳ	大腸			スライド 解説		
5	消化器Ⅴ	肝・胆のう			スライド 解説		
6	消化器Ⅵ	膵			スライド 解説		
7	消化器Ⅶ	総論Ⅱ 症状			スライド 解説		
8	口腔外科疾患に対する検査と治療・処置（疾患別の治療への理解）	(1) 歯・歯周組織の疾患 (2) 顎・顎関節の疾患 (3) 口腔軟組織の疾患 (4) 顔面頸部の疾患			講義		
9	歯の発生・萌出、口腔衛生	(1) 歯科口腔外科で取り扱う疾患と看護 (2) 歯牙、口腔の解剖、形態と機能 (3) 歯の発生 (4) 歯の萌出 (5) 口腔衛生 (6) 口腔ケアの重要性			講義		
10	歯科の検査と治療・処置（疾患別の治療への理解）	(1) 歯科疾患患者の看護の基本 (2) 総合歯科診療、検査、治療時の看護 (3) 歯周治療、歯内療法の実践 (4) 歯冠修復、ブリッジ (5) 小児歯科の看護 (6) 老人歯科の介護（義歯の種類とその手入れ）			講義		

11	腎・泌尿器Ⅰ	生理	スライド 解説	
12	腎・泌尿器Ⅱ	排尿障害	スライド 解説	
13	腎・泌尿器Ⅲ	透析	スライド 解説	
14	腎・泌尿器Ⅳ	腎不全	スライド 解説	
15	腎・泌尿器Ⅴ	感染症・悪性疾患	スライド 解説	
テキスト		系統看護学講座 成人看護学（5）消化器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学（15）歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 成人看護学（8）腎・泌尿器 医学書院		
参考書		講義の中で適宜指示する		
自己学習への 指針		テキストを熟読し、講義に臨むこと。 わからない言葉はそのままにせず、調べる習慣をつけること。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門基礎分野	科目	病態生理学Ⅲ (脳神経・感覚器・運動器)	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	北島 具秀		
科目概要	神経系がかなり複雑であることから神経系疾患もかなり複雑で多岐にわたります。極めて稀な疾患から日常的に出会う疾患まで様々です。全てを理解する事は殆ど不可能でしょう。実社会に出てから役に立ちそうな知識を蓄えて欲しいと思います。 講義の内容は教科書に概ね準拠しますが、一部は教科書に記載されていない物もあります。ここは講義用のプリントなどを参照してください。						
科目目標	1. 様々な疾患の概要を理解する。 2. 実社会で何が問題となるのかを理解する。 3. 治療法や対応に必要な知識を得る。 4. 神経系疾患／運動器疾患における医療の役割に思いを馳せて欲しい。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	イントロダクション	イントロダクション 神経の障害とは意識とその障害			講義		
2	神経学的検査補助検査法	運動系, 反射系, 感覚系, 脳神経系 単純レントゲン撮影, CTCTスキャン, MRI, 脳血管撮影, SPECT／PET エコー, 誘発電位, 脳波, 筋電図, 髄液検査など			講義		
3	主な神経微候と病態生理	運動機能障害 感覚機能障害 自律性機能の障害 髄膜刺激症状			講義		
4	頭蓋内圧亢進 脳ヘルニア	頭蓋内圧亢進とその症状 脳ヘルニアの種類と症状			講義		
5	神経疾患の治療 高次脳機能障害	外科的治療 内科的治療 失認, 失行, 失語 所謂高次脳機能障害			講義		
6	脱髄・変性疾患 神経筋疾患	脱髄疾患：多発性硬化症, 急性散在性脳脊髄炎 変性疾患：パーキンソン病, 筋萎縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症, 筋ジストロフィー, 多発性筋炎 ステロイドミオパチー 重症筋萎縮症			講義		
7	神経系感染症 中毒・頭痛	脳炎, 髄膜炎, 脳膿瘍 その他の神経感染症 急性中毒とその対応 主な中毒性疾患			講義		
8	脳腫瘍 頭部外傷 髄液の異常	脳腫瘍とは 主な脳腫瘍 頭蓋骨の損傷, 頭皮軟部組織の損傷 局所性脳損傷, びまん性脳損傷 外傷性頭蓋内出血 水頭症 脳脊髄液減少症			講義		

9	血管障害 先天奇形	虚血性脳血管障害 出血性脳血管障害 その他の血管障害 様々な中枢神経系奇形	講義	
10	脊髄・脊椎疾患	脊髄血管障害 脊髄炎，変性症，脊髄腫瘍 頸椎症，腰椎症	講義	
11	内科疾患に伴う 神経疾患 その他	神経ベーチェット病 甲状腺機能低下症 神経サルコイドーシス	講義	
12	てんかん 認知症 脳死	てんかんの発作型 てんかんの診断と治療 認知症の診断と考え方 各種の認知症 脳死の概要と対応	講義	
13	運動器の構造と 機能・生理	骨，関節，神経筋肉の役割 疼痛，継代異常，機能障害など 診断法，検査法	講義	
14	外因性の運動器 疾患	骨折，脱臼 神経，腱，人体の損傷	講義	
15	内因性の運動器 疾患	炎症性疾患 変性疾患 廃用症候群	講義	
テキスト		『病気がみえる vol.7 脳・神経』医療情報科学研究所（メディックメディア） 『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』医療情報科学研究所（メディックメディア）		
参考書		講義中に適宜指示する		
自己学習への 指針		講義内容は教科書に準拠します。教科書に書いてある事は予習されていると考えて講義を進めます。十分な予習をお願いします。		
評価方法		単位認定試験		

分野	専門基礎分野	科目	病態生理学Ⅵ (小児疾患)	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期	講師名	所 敏治		
科目概要	1. 子どもの発育・発達を学習する。 2. 正常な子どもの解剖生理を学ぶ。 3. 子どもの病気の病態生理・治療・特徴を学ぶ。						
科目目標	1. 胎生期～学童までの発育・発達のメカニズムを理解する。 2. 子どもの病気の症状及び病態生理を理解する。 3. 正常および病気の子どもへの適切な対応ができるようその特徴を理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	子どもの発育と発達	胎児・乳児・幼児・学童の正常な発達と発育とその特徴を学ぶ			講義	30分以上 復習する	
2	子どもの症状と病気	乳児～学童にみられる主な病気の症状・対応策及び特徴を学ぶ			講義	30分以上 復習する	
3	子どもの感染症	乳児～学童にみられる主な病気の病態生理及び特徴を学ぶ			講義	30分以上 復習する	
4	子どものアレルギー疾患	乳児～学童にみられるアレルギー疾患（アトピー性皮膚連・喘息・花粉症等）の病態生理と対応・治療			講義	30分以上 復習する	
5	子どもの新生児疾患	各疾患の病因・診断・治療等を学ぶ ・呼吸窮迫症候群 ・高ビリルビン血症 他			講義	30分以上 復習する	
6	小児の消化器疾患・循環器疾患・呼吸器疾患	各疾患の病因・診断・治療等を学ぶ ・幽門狭窄症、腸重積症 ・ファロー四徴症 ・川崎病 他			講義	30分以上 復習する	
7	小児の血液・悪性腫瘍／神経・筋疾患／腎泌尿器疾患	各疾患の整理・病態・特徴等を学ぶ ・急性リンパ性白血病 ・ネフローゼ症候群 ・てんかん 他			講義	30分以上 復習する	
8	小児の他の疾患とまとめ	各疾患の整理・病態・特徴等を学ぶ			講義	30分以上 復習する	
テキスト		系統看護学講座 小児看護（１）（２） 医学書院					
参考書		プリント配布					
自己学習への指針		小児科学の範囲は広く講義のみでは、すべての範囲を習得できない。必ず授業で習った範囲の教科書を読み・復習する。重要箇所をマーカーで印をつける。付箋を用いるのもよい。毎回小テストを行います。					
評価方法		①小テスト：10点～20点 ②単位認定試験：80点～90点 必要により変更する					

分野	専門基礎分野	科目	病態生理学Ⅶ (精神疾患)		単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期		講師名	鈴木みね子 他		
科目概要	精神医学や精神医療を取り巻く環境の変化は著しく、時代とともに変遷をとげてきた。ここでは、精神障害に関する精神医学について理解し、疾病の影響による心の動きや反応、心の理解を学ぶ。また、チーム医療を実践するために精神医学の基礎知識を習得する。							
科目目標	精神障害の現れ方を学び、精神医療の治療法・治療環境及び精神医療の最近の動向について理解する。							
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考	
1	気分感情障害	双極性障害・うつ病とその治療				講義		
2	統合失調症	統合失調症とその治療				講義		
3						講義		
4	神経症性障害	不安神経症・強迫神経症とその治療				講義		
5	パーソナリティ障害他	摂食障害・パーソナリティ障害とその治療				講義		
	児童・思春期の精神障害	広汎性発達障害とその治療						
6	精神作用物質による障害	アルコール症とその治療				講義		
7	非薬物療法	非薬物療法とは				講義		
8	認知症	認知症とその治療				講義		
テキスト		系統看護学講座 精神看護学（１）（２） 医学書院						
参考書		講義の中で適宜指示する						
自己学習への指針		配布資料や教科書をよく読み、暗記ではなく、自分で考えながら学習を進めていく。						
評価方法		単位認定試験						

分野	専門基礎分野	科目	薬理学	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	前期	講師名	内藤篤彦		
科目概要	薬物は疾患の治療や診断のために有用であるが、薬物の不適切な利用は副作用や中毒を引き起こし、患者の死に至る場合もある。体内に入った薬物がどのように代謝され、どのようにして疾患に対する治療効果を発揮するかを理解することで、薬物の適切な利用法を身につけることができる。						
科目目標	薬物の吸収・分布・代謝・排泄および薬効に影響する因子について説明できる。 各種疾患の病態生理とともに薬物治療の根拠を説明できる。 代表的な治療薬の作用機序を説明できる。 代表的な治療薬の副作用を説明できる。						
回数	テーマ	学習内容				学習形態	備考
1	・薬物による病気の治療	・薬理学とはなにか ・薬物の使用目的 ・薬物治療における看護師の役割				講義	
2	・薬力学と薬物動態学	・薬物が作用する仕組み ・薬物の体内における挙動				講義	
3	・薬物動態をふまえた薬物治療 ・薬物の効果に影響する因子	・薬物動態の指標と投与量 ・薬物相互作用 ・薬物の効果に影響する因子				講義	
4	・薬物の有益性と危険性 ・薬と法律	・薬物使用の有益性と危険性 ・薬物に関する法律 ・新薬の開発				講義	
5	・感染症治療薬	・抗菌薬の作用機序と副作用 ・抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗結核薬の作用機序と副作用 ・感染症治療の問題点				講義	
6	・抗がん薬治療薬、免疫治療薬	・抗がん薬の作用機序と副作用 ・免疫抑制薬、免疫増強薬、予防接種薬の作用機序と副作用				講義	
7	・抗アレルギー薬、抗炎症薬	・抗アレルギー薬の作用機序と副作用 ・抗炎症薬（NSAIDs、ステロイド）の作用機序と副作用 ・抗リウマチ薬、痛風治療薬の作用機序と副作用				講義	
8	・末梢神経作用薬	・自律神経作用薬の作用機序と副作用 ・筋弛緩薬、局所麻酔薬の作用機序と副作用				講義	
9	・中枢神経系作用薬Ⅰ	・全身麻酔薬の作用機序と副作用 ・催眠薬、抗不安薬の作用機序と副作用				講義	
10	・中枢神経系作用薬Ⅱ	・抗精神薬、気分障害治療薬の作用機序と副作用 ・抗パ薬、抗てんかん薬の作用機序と副作用 ・麻薬性鎮痛薬の作用機序と副作用				講義	
11	・心臓、血管系に作用する薬物の理解Ⅰ	・抗高血圧薬の作用機序と副作用 ・狭心症治療薬、抗不整脈薬の作用機序と副作用 ・心不全治療薬の作用機序と副作用				講義	
12	・心臓、血管系に作用する薬物の理解Ⅱ	・利尿薬の作用機序と副作用 ・脂質異常症治療薬の作用機序と副作用 ・貧血治療薬の作用機序と副作用 ・抗凝固薬、抗血小板薬の作用機序と副作用				講義	
13	・呼吸器、消化器に作用する薬物を理解する	・喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬の作用機序と副作用 ・消化性潰瘍治療薬、炎症性腸疾患治療薬、消化管機能に作用する薬物の作用機序と副作用				講義	
14	・生殖器系、物質代謝に作用する薬物を理解する	・生殖器・泌尿器疾患に作用する薬物の作用機序と副作用 ・糖尿病治療薬、その他内分泌疾患の作用機序と副作用 ・治療薬としてのビタミン				講義	

15	・皮膚科用薬、 眼科用薬、救急 用薬、消毒薬の 理解	・皮膚に使用する薬物、眼科用薬、救急用薬、消毒薬、輸液 の作用機序と副作用	講義	
テキスト	系統看護学講座 薬理学 医学書院、今日の治療薬2024 南江堂			
参考書	—			
自己学習への 指針	テキストに記載されているゼミナール問題は、各項目のまとめになる。 テキストに記載されている図表を他人に説明するトレーニングは理解の向上につながる。 第1学年で学修した「病態生理学」の内容を十分に復習しておくこと。			
評価方法	単位認定試験			

分野	専門基礎分野	科目	健康と栄養	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	後期	講師名	植田 久美子		
科目概要	生命活動に必要なエネルギーの代謝経路および看護に必要な栄養学の基礎知識および栄養摂取過不足に伴う生活習慣病の予防・栄養指導について学ぶ。						
科目目標	健康的な生活に必要な栄養素と摂取基準を理解する 栄養素の消化・吸収・代謝の過程について理解する 栄養状態の評価方法を理解する 生活習慣病改善の食事療法の指導内容および方法を理解する						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	栄養とは	・健康と栄養評価 ・看護と栄養 ・食と文化			講義		
2	日常生活と栄養	・食習慣と栄養 ・年齢別の食事摂取基準 ・スポーツと栄養、基礎代謝と活動代謝			講義		
3	食物と栄養 ①	・栄養素の種類と働き ・アトウォーターの指数 ・炭水化物の消化・吸収のメカニズム			講義		
4	食物と栄養 ②	・脂質の消化・吸収のメカニズム ・たんぱく質の消化・吸収のメカニズム ・ビタミン・ミネラルの種類と機能			講義		
5	ライフステージに 適した 栄養指導 ①	・栄養問題と健康問題 ・乳児・幼児期の食生活の特徴と栄養指導 ・学童期・思春期の食生活の特徴と栄養指導			講義		
6	ライフステージに 適した 栄養指導 ②	・成人期の食生活の特徴と栄養指導 ・老年期の食生活の特徴と栄養指導 ・食事摂取とフレイルの関係			講義		
7	生活習慣病の 食事指導 ①	・高血圧の食事指導 ・糖尿病の食事指導、食品交換表 ・肥満症・脂質異常症の食事指導			講義		
8	生活習慣病の 食事指導 ②	・肥満とメタボリックシンドロームの関係 ・メタボリックシンドロームの診断基準 ・特定健康診査・特定保健指導			講義		
テキスト		「わかりやすい栄養学」 HIROKAWA					
参考書		「日本人の栄養摂取基準（2020 年版）」 厚生労働省（テキスト内資料 有）					
自己学習への 指針		授業の復習、教科書を熟読する。 難解な用語を納得できるまで調べ学習を行う。 整理ノートの活用。					
評価方法		単位認定試験					

分野	専門基礎分野	科目	公衆衛生学	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	上條 英之		
科目概要	地域で生活する人々の疾病を予防し、健康を保持増進することを目指す公衆衛生の理念を学ぶ。疾病予防、健康増進に必要な条件と、それを保障する様々な制度について学ぶ。						
科目目標	日常生活の中で、個人や集団における健康に関連する要因を知り、どのような保健活動が行われているのかを理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	健康と公衆衛生	1. 健康と公衆衛生 1) 公衆衛生の概念 （1）公衆衛生の領域と活動の特徴 （2）プライマリーヘルスケア、ユニバーサルヘルスカバレッジ （3）国際的な協力と連携 2) 健康と環境 （1）健康の概念と健康寿命 （2）生態学的環境 （3）物理化学的環境 （4）身体的、精神・心理的環境 3) 疫学的方法による健康の理解 （1）疾病の多発とその要因 （2）疫学調査			講義		
2							
3							
4	健康指標と予防	2. 健康指標と予防 1) 健康に関連した統計 （1）国勢調査 （2）人口動態 （3）出生 （4）死亡・死因 （5）死産、周産期死亡、乳児死亡 （6）平均余命、平均寿命 2) 感染症とその予防 （1）感染症の成立要因と対策 （2）感染症に関する法律			講義		
5							
6	生活環境の保全	3. 生活環境の保全 1) 衣・住生活と健康 2) 食生活と健康 （1）食生活と食品 （2）食品の保存、加工調理 （3）食品管理 3) 地域環境衛生 （1）上水道・下水道 （2）廃棄物処理			講義		
7							
8							
9	精神保健	4. 精神保健 1) 精神の健康 2) 精神障害とその対策			講義		

10	その他の課題と 保健活動	5. 食品保健	講義	
11		6. 社会保障と医療保険、介護保険	講義	
12		1) 母子保健、学校保健	講義	
13		2) 高齢者保健	講義	
14		3) 産業保健	講義	
15		4) 国際保健、災害保険	講義	
テキスト	系統看護学講座 公衆衛生 医学書院			
参考書	国民衛生の動向、国民の福祉と介護の動向 厚生労働統計協会、 厚生労働白書（日経印刷）			
自己学習への 指針	保健、医療、福祉についての社会の動きについて関心を持つこと			
評価方法	単位認定試験			

分野	専門基礎分野	科目	医療概論	単位	1	時間数	15
学年	1 年	時期	前期	講師名	藤崎康人（12） 水野憲宏（4）		
科目概要	医療職にとって最も重要な「知識や技術を超えた人間力」と「患者を思いやる心」について学ぶ。 医療を支える専門職として、わが国の医療の現状と医療思想を総括的に学ぶ。 医療における論理観を養うとともに今後の医療の課題について学ぶ。 わが国の災害医療・放射線被曝について学ぶ。						
科目目標	医療の基本である「人道主義・人権」を看護者の立場から理解できる Well-being、医療・情報テクノロジーについて理解できる 看護の視点で医療の機能分化、地域医療連携、地域包括ケアシステム、多職種連携について理解できる 看護の視点で医療経済、災害医療、全人的統合医療について理解できる。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	医療は誰のものか①	医療の基本「人道主義・人権」、患者の権利の尊重 医療現場の倫理			講義		
2	医療は誰のものか②	情報共有とチーム医療、自己決定支援 医療職のプロフェッショナリズム			講義		
3	健康とは何だろうか①	多様な健康観と医療観、ヘルスプロモーション、 ICF とリハビリテーション			講義		
4	健康とはなんだろうか②	こころの病と Well-being、Well-being を高める支援 保健医療が迫及する価値と医療職の役割			講義		
5	医療がたどってきた道と未来への展望①	近代医学の誕生と感染症対策、生活習慣病の増加、 ゲノム医学の登場、 医療・情報テクノロジーの活用に伴う課題			講義		
6	医療がたどってきた道と未来への展望②	環境問題と医療の課題、薬害、 保管代替療法と全人的統合医療 臓器移植と再生医療、EBM とこれからの医療			講義		
7	医療システムを理解しよう①	医療の機能分化と地域医療連携、 地域包括ケアシステムと他職種連携 医療保険制度と介護保険制度			講義		
8	医療システムを理解しよう②	医療経済 災害医療 SDGs 医療安全と医療職に求められる態度			講義		
テキスト		「学生のための医療概論」 医学書院 「国民衛生の動向」					
参考書							
自己学習への指針		Reaction Paper の提出					
評価方法		Reaction Paper の記述評価及び単位認定試験					

分野	専門基礎分野	科目	看護関係法令Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	前期	講師名	奥山 和美		
科目概要	保健医療に関する法制度と保健活動について学ぶ						
科目目標	1 看護師として知っておくべき法律上の知識を学ぶ 2 看護師国家試験の出題形式及び出題傾向を理解する						
回数	テーマ	学習内容			学習形態		備考
1	医療事故	医療事故と責任			講 義		
2	保健師助産師看護師法1	保健師助産師看護師法の概要			講 義		
3	保健師助産師看護師法2	保健師助産師看護師法 欠格事由 義務など			講 義		
4	医療法	医療法の理念 医療提供施設など			講 義		
5	労働者のための法律	労働基準法 男女雇用機会均等法 育児休業法など			講 義		
6	薬物 職種	毒薬・劇薬 各種職種など			講 義		
7	産業保健	労働安全衛生法の内容 職業病など			講 義		
8	母子保健	母子保健法 母体保護法など			講 義		
9	地域保健	地域保健法 保健所 保健センターなど			講 義		
10	感染症1	感染症法 1			講 義		
11	感染症2	感染症法 2 予防接種法など			講 義		
12	生活環境	地球環境問題 廃棄物処理法など			講 義		
13	社会保険 1	社会保障総論 年金保険 医療保険			講 義		
14	社会保険 2	介護保険 1			講 義		
15	社会保険 3	介護保険 2 労働者災害補償保険 雇用保険など			講 義		
テキスト		講師作成のプリント					
参考書		看護関係法令 医学書院					
自己学習への指針		プリントを必ず持参すること					
評価方法		受講態度 試験結果					

分野	専門基礎分野	科目	社会保障・社会福祉	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	田中 恵		
科目概要	・社会保障・社会福祉の理念と制度を理解し、自らの問題として社会福祉の現状と課題を学ぶ。 ・医療保障、介護保障制度を理解し、看護職として問われるための知識を学ぶ。 ・保健医療福祉の基礎的知識、関連職種の役割と連携の在り方を学ぶ。						
科目目標	1. 社会保障や社会福祉の定義・法体系や範囲について理解する。 2. 社会福祉の分野とサービスを理解する。 3. 医療保障制度・介護保障制度と社会保険制度を理解する。 4. 社会福祉と医療・看護の連携と課題を理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	社会保障とは	社会保障制度、社会保障の概念、目的・機能、社会保障の体系（社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生と医療）			講義 プリント		
2	社会保障の内容・給付	所得保障、医療保障、社会福祉サービス、社会保障給付、少子高齢化と社会保障制度			講義 プリント		
3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	人口の変化、地域社会の変化、家族・個人の変化、経済状況の変化、雇用状況の変化、保健医療の動向、社会福祉の動向			講義 プリント		
4	医療保障制度の構造と医療提供体制	医療保障制度の特徴、健康保険と国民健康保険、保険者と対象者、給付と患者負担、費用負担			講義 プリント		
5	高齢者医療制度と保険診療のしくみ	高齢者医療制度創設の経緯と目的、医療費の適正化と特定健康審査、後期高齢者（長寿）医療制度、保健医療機関と保険医、診療報酬と薬価基準、公費負担医療、国民医療費			講義 プリント		
6	社会福祉の法制度	社会福祉の法制度、サービス内容と提供の仕組み 社会福祉法と福祉6法			講義 プリント		
7	社会福祉の組織と実施体制	社会福祉の財政、社会福祉の従事者と担い手			講義 プリント		
8	高齢者福祉	高齢者の状況、高齢者福祉の施策、老人保健事業			講義 プリント		
9	障害者福祉	障害者の定義と実態、障害者福祉の理念、障害者福祉制度の歴史的展開、障害者を支援する法制度・施策、障害者福祉サービスに関する機関および専門職			講義 プリント		
10	児童家庭福祉	児童と育ちの環境としての家庭生活の現状、児童に関わる法と施策、少子化対策と子育て支援、児童虐待対策、子どもの人権と貧困対策			講義 プリント		
11	介護保障	介護保険制度創設の背景と制度の概要、制度の基本理念、保険者、被保険者、要介護・要支援の認定			講義 プリント		
12	介護保障	保険給付、介護保険の財政、利用者の権利擁護、介護保険制度の課題と展望			講義 プリント		
13	所得保障	所得保障制度の仕組み、年金保険制度の概要と役割、社会手当（児童手当、児童扶養手当・特別児童扶養手当、障害者手当）、労働保険制度（雇用保険、労災保険）			講義 プリント		
14	公的扶助	貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度の仕組み、低所得者対策、近年の動向			講義 プリント		
15	社会福祉実践と医療・看護	社会福祉援助とは、連携の重要性、社会福祉実践と医療・看護との連携、連携の場面とその方法			講義 プリント		

テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院
参考書	医療福祉総合ガイドブック（2016 年度版） 保健医療サービス—創英図書印刷（第2版 2011 年） 保健医療福祉行政論—メヂカルフレンド社（第3版 2013 年）
自己学習への 指針	社会福祉の分野に関心を抱き、メディアによる情報を得て考察する。 社会福祉のサービス内容を理解し、臨床実習の現場で役立てる。 保健・医療・福祉の連携の必要性を理解し、社会資源の活用方法をイメージできる。
評価方法	単位認定試験

分野	専門基礎分野	科目	疫学Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	2年	時期	後期	講師名	村松 康子		
科目概要	「明確に規定された人間集団の中で、発生するいろいろな事象の頻度と分布、その影響を与える要因を明らかにして、健康関連の緒問題に対する有効な対策樹立に役立てるための科学」を地域保健・看護に携わる専門職として学習する。						
科目目標	疫学の目標である病気の予防や健康な生活の維持といったことを理解し、地域における疾病予防、健康水準の向上を成し遂げるための疫学的方法や思考を身につける。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	疫学とは 歴史的業績	疫学の定義 歴史的エピソード			ノート作成		
2	集団の健康状態 の把握 1	疾病の頻度の指標（比・割合・率）有病率、累積罹患率、致命率、発症率、罹患率、死亡率			ノート作成 演習		
3	集団の健康状態 の把握 2	曝露効果の指標 相対危険			ノート作成 演習		
4	集団の健康状態 の把握 3	曝露効果の指標 寄与危険			ノート作成 演習		
5	疫学的研究方法 1	疫学研究における倫理 対象集団の選定（母集団と標本 標本抽出法） 曝露と発生要因			ノート作成		
6	疫学的研究方法 2	研究デザイン（観察研究、介入研究、エビデンスのレベル）			ノート作成		
7	疫学的研究方法 3	誤差 偏り（バイアス） 交絡と制御方法 疫学における因果関係の立証 アウトブレイク時の疫学調査			ノート作成 演習		
8	疾病予防とスク リーニング	スクリーニングの目的・要件・評価 鋭敏度と特異度			ノート作成 演習		
9	疾病登録 主な 疾患の疫学	母子保健の疫学 主な疾患の疫学			ノート作成		
10	疫学と公衆衛生 看護	社会疫学・政策疫学（ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ）・臨床疫学			ノート作成		
11	世界・日本の人 口の動向	高齢化社会の現実と少子化社会の現実 健康寿命			講義資料		
12	生活習慣病	国民生活基礎調査・患者調査 国民の健康状況と受療状況 「健康日本21」と生活習慣用対策の 実態 メタボリックシンドローム			講義資料		
13	感染症の疫学 1	疾病の流行史 世界の流行史・我が国の流行史			講義資料		
14	感染症の疫学 2	パンデミック（コレラ・インフルエンザ） AIDS, COVID-19の動向			講義資料		
15	歯科保健対策の 動向	歯科疾患実態調査 ライフステージ別の歯科保健活動			講義資料		

テキスト	疫学・保健統計学 医学書院 講師作成資料
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会 公衆衛生がみえる 2024-2025
自己学習への 指針	疫学方法を駆使して集団に発生する疾病の原因追求、予防の手段や方法論を学び、地域保健を展開する基本を学ぶ。
評価方法	単位認定試験 ノート提出状況

分野	専門基礎分野	科目	保健統計学Ⅰ	単位	1	時間数	30
学年	1 年	時期	後期	講師名	太田 俊・竹内 信		
科目概要	必要とされる情報を収集・集計・分析し、根拠に基づいた看護を実践するための手法として統計学の基礎知識を学ぶ。						
科目目標	保健統計学と医療・看護の関わりについて理解する。 統計データの種類とまとめ方について理解する。						
回数	テーマ	学習内容			学習形態	備考	
1	統計学入門①	統計学とは 記述統計と推計統計			講義	個人のPC持参	
2	統計学入門②	調査・研究と統計学			講義	//	
3	統計データの種類とまとめ方①	質的データのまとめ方 量的データのまとめ方			講義	//	
4	統計データの種類とまとめ方②	統計データのグラフ表示 各種グラフの特徴			講義	//	
5	確立と分布①	単一事象の確率、複合事象の確立 順列・組み合わせ			講義	//	
6	確立と分布②	確立と関数、離散分布 連続分布、標本分布			講義	//	
7	母集団・標本と推定①	母集団の概念、標本抽出法、 偶然誤差と系統誤差（バイアス）			講義	//	
8	母集団・標本と推定②	点推定 区間推定			講義	//	
9	各種検定①	検定の概念、検定の種類、 1 群の標本の検定			講義	//	
10	各種検定②	2 群の標本の検定 t 検定、F 検定			講義	//	
11	各種検定③	3 群以上の標本の検定、クラスカル・ワリス検定 比率（割合）の検定、カイ二乗検定			講義	//	
12	各種検定④	相関係数の検定、 相関・回帰・重回帰・ロジスティック回帰分析			講義	//	
13	保健統計の基礎①	世界・国・地方自治体の統計 人口静態統計			講義	//	
14	保健統計の基礎②	人口動態統計			講義	//	
15	保健統計の基礎③	国民生活基礎調査、患者調査、国民健康・栄養調査 食中毒統計、感染症発生動向調査、生命表			講義	//	
テキスト		「統計学」 医学書院 「疫学・保健統計学」 医学書院					
参考書							
自己学習への指針		教科書および配布資料を用いて、授業内容を整理し、予習および復習を行うと学習の理解が深まります。					
評価方法		単位認定試験					

